

I 個別最適化を実現する音楽科における器楽・音楽づくりの指導

～ICTの効果的な活用をめざして～

音楽科の器楽演奏の活動において、ICTを活用した「指導の個別化」と「学習の個別化」の取組を行った。特に器楽演奏に苦手意識や困り感をもつ児童に焦点を当てた個別最適な学びの実現をめざして行った実践である。個々の児童の課題や、それに伴う意欲の低下を想定し、手立てを工夫した授業実践を行った。

1 実践の具体

① 教具や支援で苦手を補う「指導の個別化」

読譜に課題がある児童には、階名を示したプリントの配布、模範演奏動画の配信などを行い、苦手を軽減する支援を行った。記譜や書字が苦手な児童には、タブレット端末を使用してワークシートの配信を行い、画面上の操作で音楽づくりができるようにすることで、活動への意欲化を図った。

② 児童とともに目標を設定する「学習の個別化」

人前で演奏することに抵抗がある児童のために、オンライン上でのコンサートを企画し、配信を行った。何度でも撮り直せる安心感があり、普段の授業と同じ雰囲気リラックスしてコンサートに参加することができた。器楽のテストにおいても、各自のタブレット端末を活用して行い、児童は緊張せずにテストに参加することができ、また、教師はくり返し視聴することで適正な評価を行うことができた。

2 実践の成果と今後の方向性

ICTを活用した様々な支援により、音楽に苦手意識をもっている児童の負担軽減、学びへの意欲化を図ることができた。様々な支援や教具について、95%以上の児童が「役に立った」と回答し、主体的に活動に取り組むための一助になったといえる。また、「音楽の授業は好きですか。」のアンケートにおいても、肯定的な答えが8割程度になり、ICT活用以前よりも高まっている。教員にとってもICTの力を借りることは教材準備の負担軽減にもつながり、時間の有効活用につながった。ICTの活用について、今後も子どもたちにとって本当に役立つ教材は何か、さらに研究を重ねていきたい。